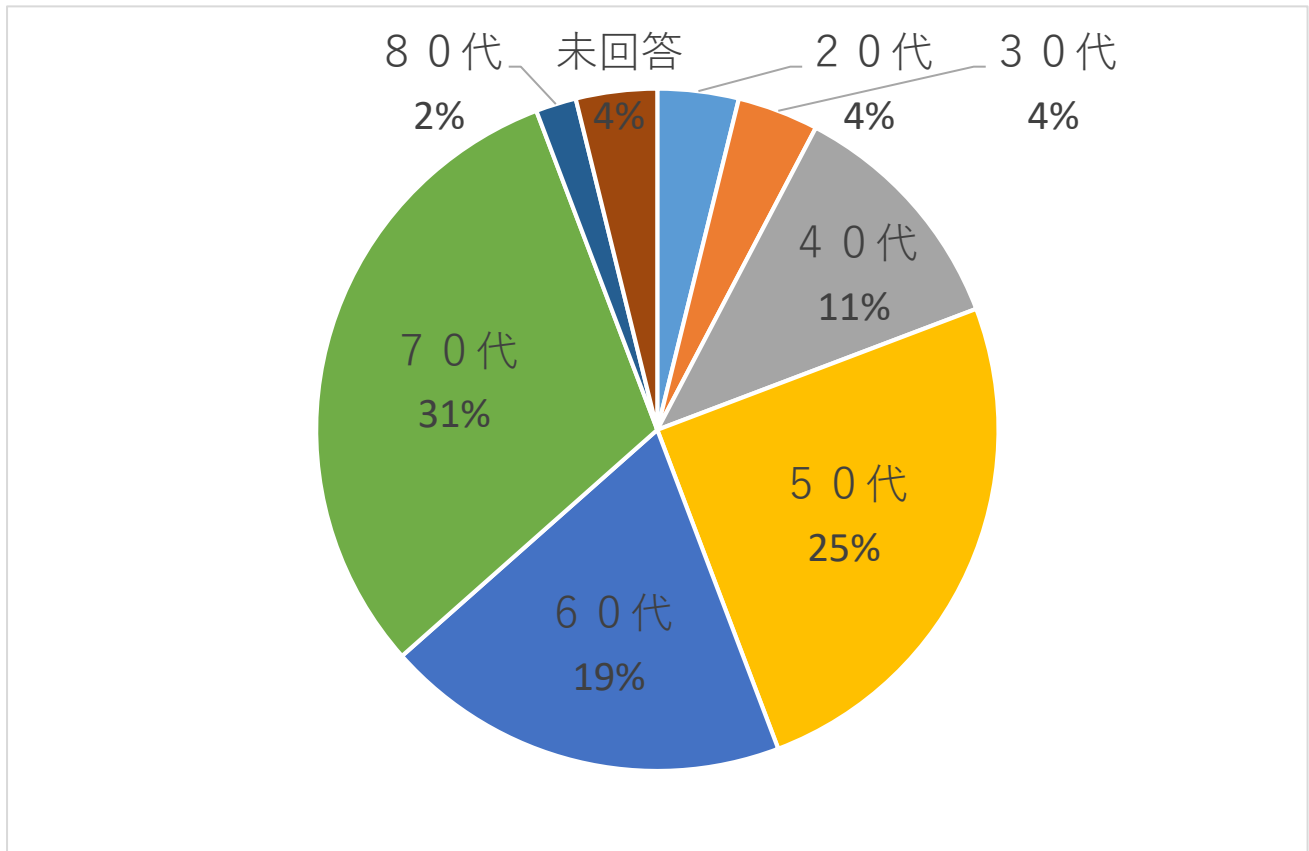
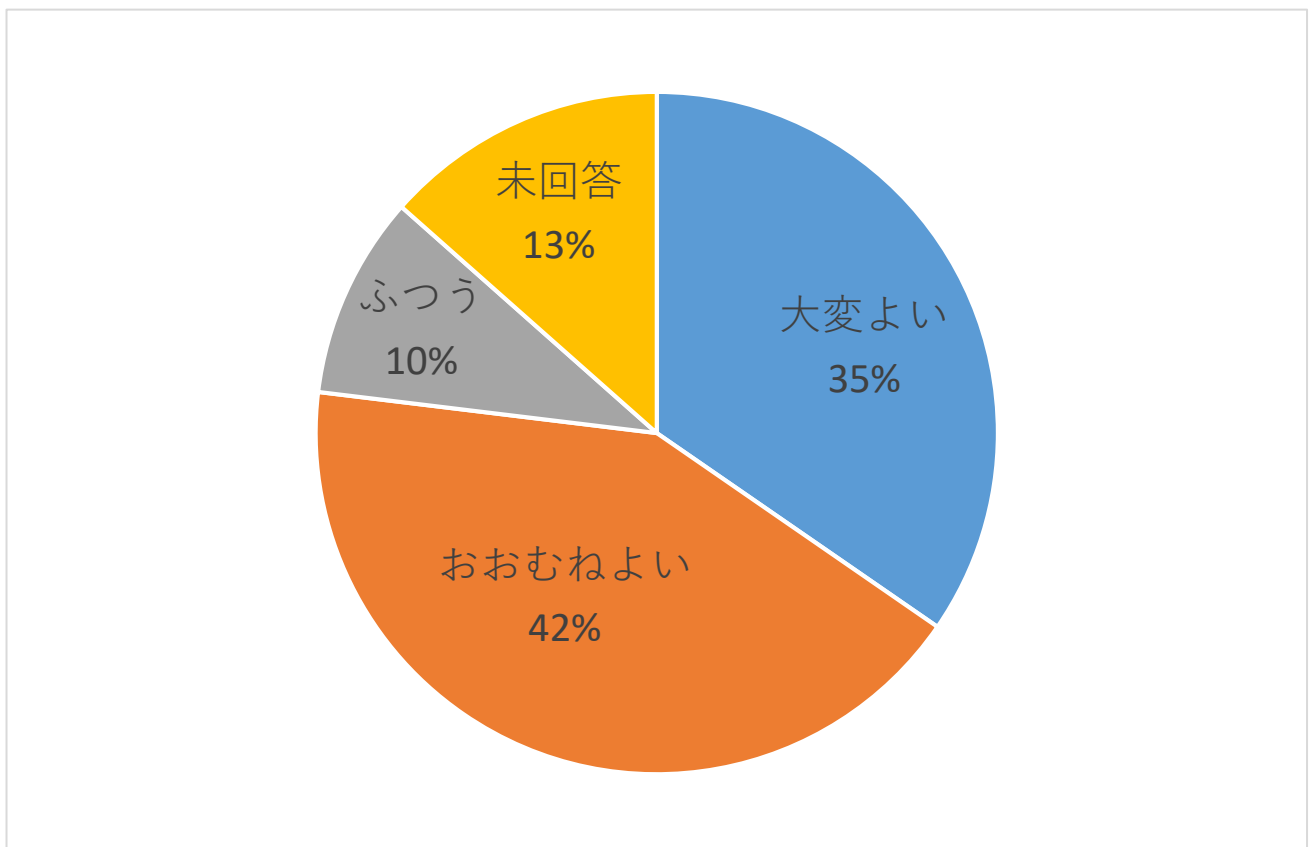


ひきこもり支援研修会（6月10日）アンケート結果

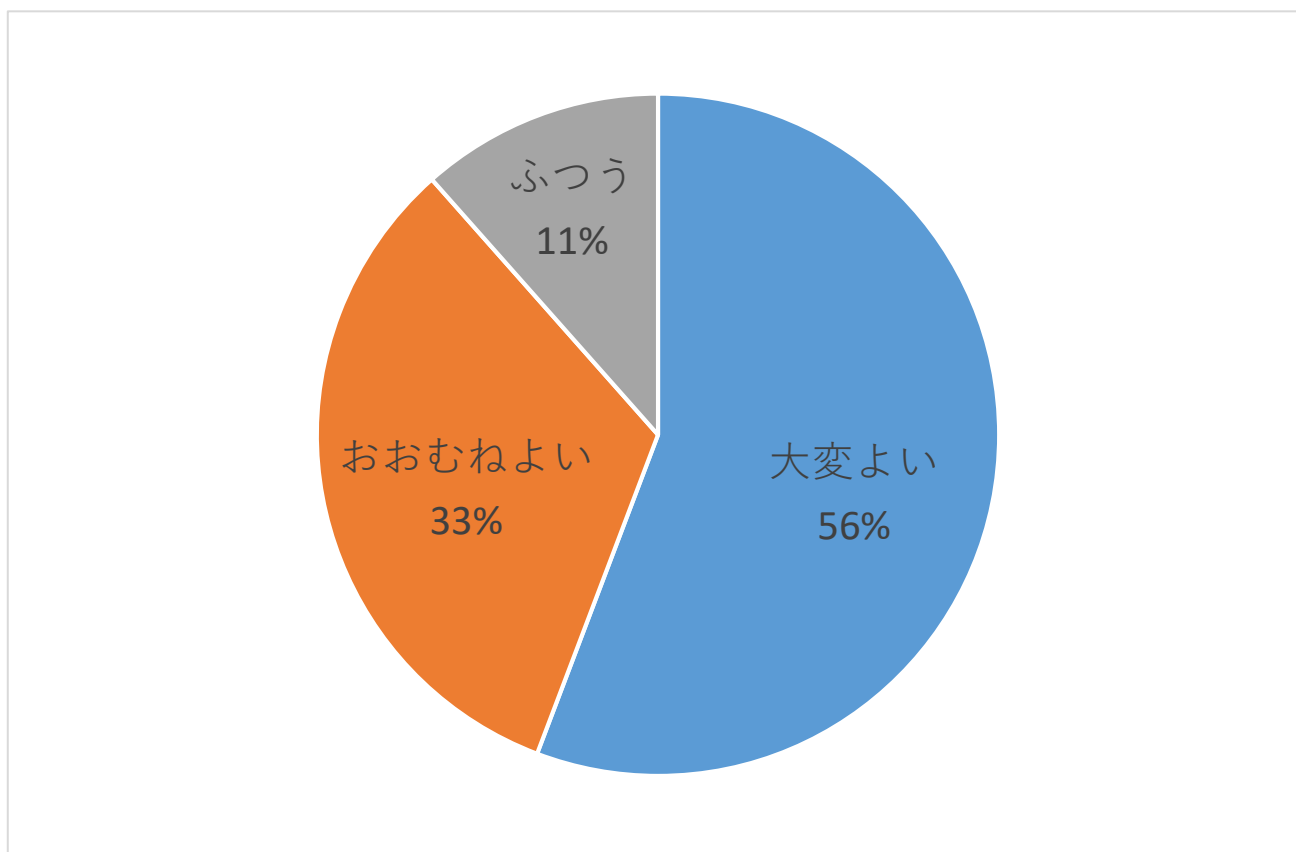
1 参加者内訳



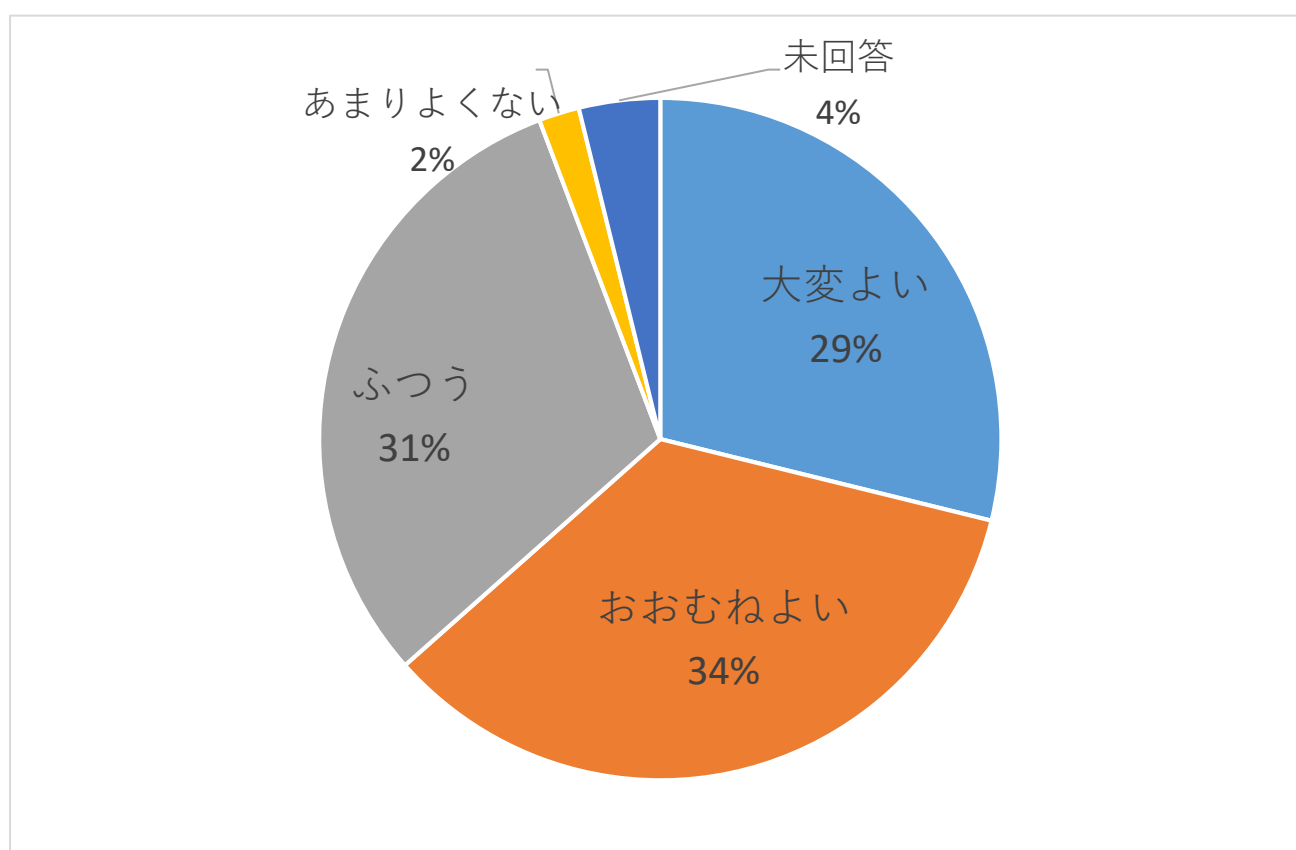
2 研修会全体の感想



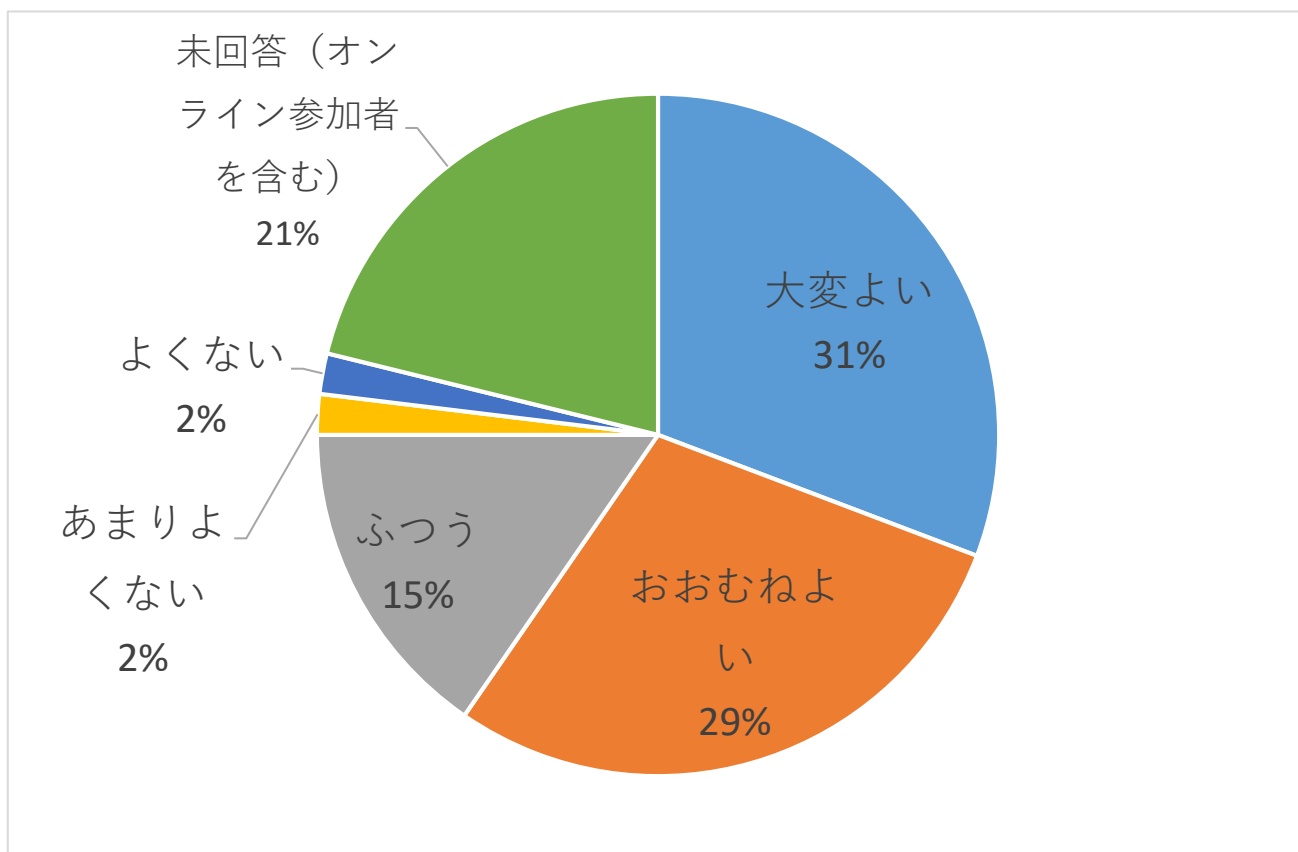
3(1) 感想（支援団体から見たひきこもりと支援活動の事例紹介）



3(2) 感想（松本市の「誰も取り残さない全世代型支援体制（重層的支援）」の概要について）



3(3) 感想 (グループワーキング)



令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

1 年代に○のご記入をお願いします。

20代→2人 30代→2人 40代→6人 50代→13人

60代→10人 70代→16人 80代→1人 無選択→2人

2 研修会に参加して、全体の感想につきまして、(1)~(5)に該当する項目に○のご記入をお願いします。

(1) 大変よかった。→18人 (2) おおむねよかった。→22人 (3) ふつう→5人

(4) あまりよくなかった。→0人 (5) よくなかった。→0人 無選択→7人

ご回答の理由をご記入ください(任意回答)→別紙1のとおり

3 内容ごとの感想をお願いします。(1)・(2)のア~オに該当する項目に○のご記入をお願いします。

(1) 支援団体から見たひきこもりと支援活動の事例紹介

ア 大変よかった。→29人 イ おおむねよかった。→17人 ウ ふつう→6人

エ あまりよくなかった。→0人 オ よくなかった。→0人

ご回答の理由をご記入ください(任意回答)→別紙2のとおり

(2) 松本市の「誰も取り残さない全世代型支援体制(重層的支援)」の概要について

ア 大変よかった。→15人 イ おおむねよかった。→18人 ウ ふつう→16人

エ あまりよくなかった。→1人 オ よくなかった。→0人 無選択→2人

ご回答の理由をご記入ください(任意回答)→別紙3のとおり

(3) グループワーキング

ア 大変よかった。→16人 イ おおむねよかった。→15人 ウ ふつう→8人

エ あまりよくなかった。→1人 オ よくなかった。→1人

無選択(オンライン参加者を含む)→11人

ご回答の理由をご記入ください(任意回答)→別紙4のとおり

4 ひきこもり支援研修会の内容に関する要望等がありましたら、自由にご記入をお願いします。→別紙5のとおり

令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

2 研修会に参加して、全体の感想【回答理由】

(1) 大変よかった。

- ・ 資料提供、情報交換があった。
- ・ レジュメに沿った具体的な内容で、まとめてお話をいただき、分かりやすかったです。
- ・ 2回目だけの参加でしたが、来てよかった。民生委員の活動に活かしていきたい。
- ・ 支援団体からの活動について、具体的で分かりやすい説明でした。松本市の重層的支援体制整備事業も、手探りながらもスタートしながら改善していくという取組み姿勢に共感が持てました。また、最近の情報についても新聞記事等で取り上げていただき、学びになりました。
- ・ 2回の研修で各お二方、すべて違う立場の方からのお話で、大変興味深く、貴重なものでした。とても参考になりました。

(2) おおむねよかった。

- ・ 具体的で、共感できることが多々ありました。
- ・ あまり知らなかったことが、詳しく聞けてよかった。
- ・ また、いろいろ知りたいと思った。
- ・ 初めての参加だった。難しい問題だが、学ぶ機会をいただけて、よかった。

(3) ふつう

- ・ オンラインの参加を認めるのであれば、オンライン担当者を置き、音声・動画などが滞りなく配信されているか、リアルタイムで確認するようにしてもらいたい(2人)。

令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

3 講演ごとの感想をお願いします。(1)のア～オに該当する項目に○のご記入をお願いします。

(1) 支援団体から見たひきこもりと支援活動の事例紹介 【回答理由】

ア 大変よかった。

- ・ 実践されている方のお話は重く、私達の居場所を利用されている方々の顔が浮かびました。
- ・ 親御さんの支援も、非常に大切。親が変われば、子も変わる。
- ・ ひきこもりは、社会的かつプライベートな課題のため、公の機関で何とかしていただきたい。
- ・ 具体的な実態が分かり、よかった(5人)。事例が特に参考になり、うなずける面が多かった。
- ・ それぞれの立場を考えていかなければならない。
- ・ 家族環境の大切さを学びました。
- ・ ひきこもりの方は、見た目と心の中とは違うことや、小さい頃から他から認められる経験が少ない等、改めて感じた。
- ・ 相談できる場や人の必要性を感じた。
- ・ 実際の現場での関わりについて、丁寧に事例を交えてお話ただけて、分かりやすかったです。就労の話も出ましたが、そこに至るまでの丁寧な関わりについても、触れていただきました。外に出られるようになってからも、本人とゴールを共有しながら、スモールステップで安心を感じられる関わりが、やはり大切だなと改めて思いました。資料をたくさんご準備いただき、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 心身共に不調で、外に出られない中学生の母として、以前から支援団体さんがどのようなものか、気になっていたもので、この機に知ることができて良かったです。お話の中で「外からの見た目(スマホやゲームばかり)と心の中は違う」という部分、本人の心の中のご説明(スライド19)が、今までに我が子の口から出た発言とドンピシャなものが多々ありました。このように、本人の心情・家族の心情に深く理解のある団体さんに支援いただけたら、心強いだらうなあと、自分でも関わりたく思いました。

イ おおむねよかった。

- ・ 具体例があり、話が分かりやすかった。
- ・ 実際に支援をしている団体の貴重な話が伺えて、よかった。
- ・ 知らなかったことが多く、勉強させていただいた。
- ・ NPO法人なのに、しっかりと対応されていて、素晴らしい。

令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

3 講演ごとの感想をお願いします。(2)のア～オに該当する項目に○のご記入をお願いします。

(2) 松本市の「誰も取り残さない全世代型支援体制(重層的支援)」の概要について

【回答理由】

ア 大変よかった。

- ・ どんな支援体制があるかが分かり、よかった。
- ・ 中野市の事件で、中野市も誰も取り残さない支援体制を作るという市長談話があったので、松本市でも頑張ってもらいたい。
- ・ 誰も取り残さない支援体制が、松本市で4月から始まったことを知り、よかった。

イ おおむねよかった。

- ・ 今年度から始まった支援体制について聞くことができ、よかった。
- ・ 松本市が動き出していることが分かり、よかった。
- ・ たらい回しの対応がよく聞かれるので、大いに期待している。
- ・ 重層的支援体制整備事業は、行政の縦割りの弊害の垣根を少しハードルを下げるための事業ですが、まだまだ手探りの段階なのかなと感じました。ヨコのつながりの大切さについて、改めて考えさせられました。スタートしてから2ヶ月ですから、現場も試行錯誤だと思います。官民連携や外部団体、民間団体との連携も、今後少しずつ広げていけるとよいのでは・・・と感じました。専門窓口もよいですが、分からないから、どこに相談に行っても、ちゃんと相談やサポートにつながるのが重層的支援体制整備事業のメリットです。あとは、行政の運用の妙だと思います。「誰も取り残さない全世代型支援体制」いいですね。この制度が、縦割り行政の狭間でサービスが利用できずに困っている方に届くよう、エアポケットを埋める一助として、少しでも活用されることを願います。ただ、もう少し説明は住民目線だといいな・・・と思いました。市役所内の行政説明は、これでいいかも知れませんが、制度を知っていただくチャンスでもあります。このチャンスを活かして、制度をPRするとき、いかに相手目線(市民の目線)で分かりやすく伝えるか・・・という工夫があると、さらによいお話になったと思います。

- ・ 松本市が、このような取り組みに力を入れていて、ひきこもりの人を支援する意向であることは、とても喜ばしいことです。しかし、入学した公立中学の環境からのストレスが大きなきっかけで、心を病んでしまった我が子に長く接してきて、一度ひきこもりの深みにはまってしまうと、たとえ支援があっても、抜け出すのは本当に難しく、時間も相当かかる気がします。支援体制が整うのはよいことですが、元は健全だった心を健全なまま維持し、生きていけるような環境がそこにあることも、大事だと思います。ひきこもりの原因となり得る物事の洗い出しや改善にも、力を入れていただきたいです。

ウ ふつう

- ・ チーム活動ができるようになることが分かって、良かった。
- ・ これからに期待します。
- ・ 松本市の取組みについて知ることができて、よかった。
- ・ 行政の対応は、第1回目研修会でまとめればよかった。
- ・ ひきこもりの方の支援の具体例、まずどこを訪ね、以後の手順がよく分からなかった。
- ・ これからどうなっていくかが課題。伴走型支援は、地域づくりでもある。形にとらわれずに本当に意味で「誰も取り残さない」世の中になるといいと思う。
- ・ 市の体制については、少し難しかった。

エ あまりよくなかった。

- ・ 具体的な政策のイメージが捉え難い説明だった。具体的な事業名や連絡先等の情報が欲しかった。

令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

3 講演ごとの感想をお願いします。(3)のア～オに該当する項目に○のご記入をお願いします。

(3) グループワーキング【回答理由】

ア 大変よかった。

- ・ いろいろな立場の皆さんを知ることができた(3人)。
- ・ 皆さんのいろいろな意見を聞いた(3人)。
- ・ 時間が足りない。もっと時間が欲しい(3人)。
- ・ 実体験や机上では分からないことが聞いた。

イ おおむねよかった。

- ・ 改めていろいろな立場の方が参加されていることが分かりました。
- ・ ひきこもりの家族の方の話を、もう少し聞きたかった。
- ・ 時間が足りない(3人)。

ウ ふつう

- ・ 時間が足りない(3人)。
- ・ 参加者の思いを聞くだけで終わった。

オ よくなかった。

- ・ 自己紹介で終了してしまった。

カ その他

- ・ ある班で、支援者の人が当事者の人からいろいろと聞こうとしていたが、いやと感じる当事者の方もいるのでは。
- ・ 一案として、グループワークは支援者と当事者とで分けるか、当事者でも支援者がいるグループに入ってもいい人、当事者のみのグループがいい人と、事前に要望を取っておいた上で、グループを編成するのがよいのでは。

令和5年度 ひきこもり支援研修会(第2回) 参加者アンケート結果(5.6.10開催)

4 ひきこもり支援に関する要望、感想等がありましたら、自由にご記入をお願いします。

- ・ 研修会を定期的に継続開催して欲しい(5人)。
 - ・ ひきこもりの相談支援の団体が連携して、情報共有や研修ができればいい。
→ 県精神保健福祉センター、県社会福祉協議会、NPO法人ジョイフルで、定期的に開催していただいている。
 - ・ レジユメの印刷が、字が小さかったり、インクが薄かったりして読めなかったので、配慮が欲しかった(2人)。
 - ・ 松本市の事業概要は、不必要だと思う(2人)。
 - ・ 「ここなら 中信地区不登校ひきこもりネットワーク」の冊子のご提供、ありがとうございます。参考にします。全戸配布してほしい。
 - ・ 大変勉強になった。
 - ・ 民生委員として、地域の見守りで80・50問題があります。面会は、親としています。
 - ・ これだけニーズがあるのは、すごい。
 - ・ 保健師・民生委員の方々の意識が高い。
 - ・ 当事者や家族が、思いを話せる機会が続くといいと思う。
 - ・ 「分かってもらいたい、大事な事なんだな。」と研修を受けて思いました。
- 以下について、具体的に知りたい。
- ・ ひきこもりから自殺、犯罪、精神病につながる事例率
 - ・ 49才で切られた後の支援は、どうなるか？(NPO法人ジョイフルに照会)
 - ・ 松本市重層的支援事業の生活困窮者のための地域づくり事業は、何かあるか。
(健康福祉部に照会)
 - ・ 「ひきこもり」で日本以外(米、英、仏、欧州)の本人・家族の捉え方を知りたい。
外国に研修に行きたい。
 - 日本よりは寛容・ポジティブ(積極的)に捉えている。(文献確認)
 - ・ ひきこもり家族の苦しみを救って欲しく、参加した。
 - ・ 体制がどこにあり、どうやれるか、「ひきこもり」の相談がしやすいことについて、もっと深い説明が欲しい！

- ・ 野口氏より、重層的支援体制整備事業の紹介がありました。支援体制を整える意味でも、横山氏より指摘のあった支援者の育成、スキルアップを、まず市の相談窓口職員から始め、それをもとに地域に広げてもらいたい。
- ・ 誰も取り残さない社会づくりに少しでも希望が持てるようになれば良いです。
- ・ オンライン参加で、グループワークの様子が分からなかったのですが、お気に入りの居場所を出し合ったのなら、ただグループワークをして終わりではなく、出てきたおすすめスポットをマップにして青少年ホームのホームページに掲載する、あるいは所報に研修会の報告をあわせて載せる等、フィードバックがあると、居場所探しに悩んでいる方、今回の研修会に参加できなかった方にも情報が届いてよいのではないかと…と思いました。もしホームページや所報に掲載されましたら、参加者に皆様にもお知らせいただくと、情報が共有してよいのでは…と思います。成果を見える化して共有する取り組みが、次の一步につながるような気がいたします。この度は、お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 現状を話し合う時間が、ほしかった。
- ・ もやもやを話したい！！
- ・ 人(支援者)も居場所も足りない。
- ・ サードプレイス(第3の居場所)の必要性を感じた。
- ・ 30代後半のひきこもりの支援について、話し合いたい。